

芦安中学校（後期）自己評価書

平成24年1月17日

南アルプス市立芦安中学校

校長 興水 哲男

1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員対象アンケート、生徒対象アンケート及び保護者アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月6日）

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 教育目標

・学校目標を活かした教育活動の展開，意識化は前期に引き続き概ね良好な状況にある。しかし，「意欲的に学習し，最後までやり抜く生徒」「正しく判断し，自主的に行動する生徒」「人を思いやり，尊敬するとともに協力性に富む生徒」については，教師や生徒のアンケートから前期同様に，十分に達成しているまでに至っていない。

来年度からの新学習指導要領の完全実施にあたり，各種行事等教育活動の計画に際しては，今年度の教育活動の反省を活かし，芦安中の生徒に求める力として，どこに重点をおいて指導していくのかを事前に確認しながら指導していきたい。また，各具体目標をバランスよく達成できるように，PDCA サイクルを活かした教育活動の実施に努めたい。

(2) 学校運営

・「校務分掌」については，概ね機能している状況である。しかし，一人でいくつもの仕事を抱えている現状があるので，臨機応変に動き，協働による体制をさらに強めていきたい。

・「校内研究」は，2学期に授業研究が行われ，前期より日々の授業に生かされてきたが，生徒の実態と学び合いの場面が噛み合わないこともあった。そこで，一人一研究授業だけでなく，2学期後半から，自分の授業を検証し，学び合える授業が展開できるよう授業公開を進めてきた。各自が改善に努力し，授業力向上につながるような校内研究となることをめざしたい。

・「報告・連絡・相談」は，比較的良好な状況にあり，生徒に関する情報交換も密度の濃いものとなっている。引き続き，職員全体で，あるいは関係者との間で十分な情報共有が図れるよう努力していきたい。

(3) 学習指導

・学力の向上は、本校にとって大きな課題の一つである。教師アンケートでは、学力差により学び合いの学習が難しい状況も指摘されている。また、宿題や家庭学習について、前期より取り組む姿勢が見られるようになってきたが、まだ十分とは言えない。そこで、以下の点について取り組んでいく。

①わかる授業，少人数を活かした授業

↓
生徒の実態を把握し、自ら学び考える力を育てる授業、個に応じた学習指導を行う。

わかる授業の基本は「教師のこれだけは何としても教えたこと」を「子どもが学びたい、追求したい、調べたい」へ転化すること

②まなびの時，放課後学習会の充実

個に応じた課題（ドリル的な学習，補習的な学習）を通して，基礎学力の定着を図る。

③家庭学習の定着

現状でも行っているが，保護者との連携を通して，ねばり強く家庭学習の習慣化を図る。

④小学校との連携

身に付けさせたい学習習慣，学習規律等，小中で連携して取り組む。

・「わからないことを先生に聞いていますか」の項目では，CやDの評価が多い。教師の対応の仕方（言い方）を問題にする保護者もいる。わからないことを否定的に対応するのではなく，一人ひとりの発言を認める雰囲気での授業をめざしていきたい。

・道徳の授業について，生徒アンケートでは「心から考えたり感じたりしている」の項目にC評価が多い。生徒が生命を大切にできる心や他人を思いやる心，善悪の判断などの規範意識等の道徳性を身に付けることは，本校の生徒の実態から見ても，とても重要である。その要となるのが道徳教育である。保護者からも心の教育の必要性が挙げられている。道徳の時間の充実と学校教育全体での指導を連携させて，道徳的実践力を育てていきたい。

(4) 生徒指導

・「あいさつ」については，家庭内では良好であり，前期より改善が見られてきた。「言葉づかい」については，前期同様に課題がある。場に応じた言葉づかい，相手を思いやる言葉づかいを，その場，その場で全教師が継続した指導をしていくと共に，家庭にも協力を呼びかけていきたい。

・生徒の諸問題については，PTA 理事会や学年部会で，学校と保護者で共通の問題として話し合うことにより，徐々に改善されてきた。しかし，クラスや部活での友人関係のトラブルから，「学校があまり楽しくない」「相談できる友だちが余りいない」と思う生徒もいる。今後も，教師同士

や保護者と教師が素直に話し合い、共通理解を図りながら、安心して過ごし学ぶことのできる学校づくりに力を尽くしていきたい。

・生徒が「自分の気持ちや意見をはっきり言える」の項目は、C評価が増えており、生徒が未だ充分開放されていない現状が指摘されている。「困った時に相談できる先生」について、前期に比べ、複数の教師に対して話しやすくなっている傾向にある一方で「いない」という生徒も2人存在する現状もある。「教師と生徒」「生徒同士」の関係づくりが今後も課題となるが、生徒一人ひとりを認め肯定する中で、すべての教職員がすべての活動において生徒と活動を共有し開かれた教育活動を展開していきたい。

(5) 学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

・「部活動」では、意欲的に取り組んだという評価をする生徒は多い。しかし、向上心を持って主体的に練習に取り組むという点では課題が残った。新体制となり、部長を中心とした部運営や見通しを持った練習メニューづくりを進めてきている。さらに教師自身が専門性を磨き、意欲と目的を持った練習になるよう指導していきたい。

・教職員や生徒による評価において、生徒会の自立的な活動についてC評価が多い。生徒会活動が形骸化することなく、より自主的、創造的な形で展開されるよう、指導にあたっていきたい。

・「太鼓」を演奏するときの生徒は、練習のときから、一人ひとりが集中し、一生懸命に取り組む姿が見られ、白峰祭では、聴くものに感動を与える演奏ができた。「合唱」では、交流音楽会の取り組みを通して、前期より意欲的な様子や音楽的な変容を見ることができた。今後も、「太鼓・合唱」等の表現活動を通して、豊かな心や感性の育成を図ると共に、個を大切にしたい一体感のある全校集団づくりを目指していきたい。

・「学校行事」では、安易に前年の踏襲でなく、生徒の実態を踏まえたねらいを明確にした取り組みを進めていくことで生徒の充実感と変容につなげていきたい。

・白峰祭の全校劇では、小グループでセリフや動きを練習し、自分たちで創り上げようとする姿勢が見られた。しかし、学校生活の中の様々な取り組みの中で、「大人や教師がやってくれるのは当たり前」「自分たちはやらされている」と感じて活動している生徒の様子も見受けられる。

授業や諸活動の中で、

- ①教師の指示をできるだけ控え、生徒がじっくりと考える時間を確保する。
- ②生徒自身が決定する活動を取り入れる。
- ③縦割りグループを活かして、全校で活動したり、話し合ったりする場を設ける。

という活動を取り入れて、生徒の「自主性・自立性」を育てていきたい。

(6) 家庭・地域・小学校等との連携

・PTA 理事会を単なる連絡機関でなく、子どもたちのことを話し合う場と捉え、芦安中生徒の問題を教員、保護者みんなで考え、問題を共有し解決を図ってきた。その結果、徐々に子どもたちの生活態度や学習態度に改善が見られてきた。保護者アンケートから教師の生徒への対応や学習指導、困ったときに相談できないという課題を持つ保護者もいる。教職員と保護者とが生徒の活動をはさんで気軽に話を交わせることが相互理解の最も大切な点であることを考え、「学校開放日」「三者懇談」「PTA理事会」「PTA学年部会」での交流はもちろん、日頃から保護者との連絡を密にしていきたい。

・「地域との連携」では、2学期、「ちっくい祭り」で有志生徒と夜叉神太鼓保存会の皆さんと合同演奏を行った。1学期の「新緑祭り」を始め、生徒たちがより地域の中で存在感を増し頼りにされる存在となってきた。また、多くの地域の支援者の協力のもと、芦安中の特色ある教育活動が進められてきた。その感謝の気持ちと自分たちも地域の一員という自覚を持って、地域の中で学び成長する教育活動のさらなる推進をめざしていきたい。

・「小学校との連携」では、「やきいも集会」「(小学校への)読み聞かせ」や教職員の授業参観の交流を推進してきた。今後、生徒数が減少する中で、小中連携しての特色ある学校づくりへの地域の期待も大きい。学習習慣や生活規律等、「9年間で子どもたちを育てる」小中の連携をめざし、協議を重ね、さらなる前進を図っていきたい。

・本年度、「ユネスコスクール」の加盟やこれまでの新聞配達の活動に対して、内閣府から「青少年社会貢献」で表彰された。保護者や地域の方からも「特色ある芦安中教育をこれからも推進してほしい。」「小規模校のよさを活かした教育を進めてほしい。」という意見をいただいている。今後も、地域や保護者と連携しながら、特色ある芦安中の教育を進めていきたい。

(7) その他

・たよりやホームページを通して、保護者や地域に教育活動を広報しており、特にホームページは、南アルプス市の学校で一番のアクセス数となっている。また、いろいろな活動がマスメディアに取り上げられることも多い。このことは、芦安中への関心の高さを示していると思われる。今後も個人情報に注意しながら、情報発信をしていきたい。